

ひとつのいのち。みんなのたしなみのち。

「命を大切にできる心を育む県民運動」を県民総ぐるみで推進するための情報誌

いのちつうしん

2022年度



令和4年度「笑顔の未来へのメッセージ作品」 図画部門 最優秀賞 寺沢 賢青さん(十和田市)

目次

- 命を大切にできる心を育む県民運動推進会議会長からのメッセージ 2
- 命を大切にできる心を育む県民運動推進フォーラム 3
- 「笑顔の未来へのメッセージ作品」 募集事業 4～6
- 命を大切にできる心を育む地域との絆づくり応援事業 7
- 他人を思いやり命を大切にできる心を育む対話集会 8～9
- 県内一斉声かけ活動 10～11
- 青森県推奨図書、家庭の日、子ども・若者総合案内、会員募集 12



命を大切にすることを育む県民運動推進会議 ～ 会長からのメッセージ ～

日頃から、朝の声かけ活動など様々な交流を通じて、子どもたちの見守りに御尽力いただいている皆様に深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、これまで人々の繋がりを育んできた地域のお祭りやイベントのほか、学校生活やスポーツ・文化活動などの多くが様々な制約を受ける中、子どもたちの交流体験の場や、日々の努力の成果を発揮し、達成感や充実感を得る貴重な機会をいかに確保・実現していくのが喫緊の課題となっています。

また、情報化社会の進展に伴う子どもたちのインターネット利用機会の増加や低年齢化により、インターネットを通じた犯罪被害の発生やSNSによるいじめなど、様々な問題が顕在化しています。

こうした状況にあるからこそ、子どもたちが、他人を思いやり、命を大切にすることを育むとともに、地域の見守りの中で、夢や希望を抱きながら、自らの可能性を信じ、チャレンジしていくことにより、子どもたちの孤立感の解消や明るく前向きに未来へ進んでいく気持ちが涵養されるよう、私たちが今できることを真摯に考え、子どもたちにしっかりと寄り添い、支えていくことがより一層求められています。

これからも、命を大切にすることを育む県民運動がさらにすそ野を広げ、青森県の未来をつくる財^{たから}である子どもたちが、心身ともにたくましく健やかに成長していけるよう、地域全体で取り組んでいきましょう。

命を大切にすることを育む県民運動推進会議会長 三村申吾



令和4年度、県では、下記の事業を実施しています。

- 命を大切にすることを育む県民運動推進フォーラムの開催
- 「笑顔の未来へのメッセージ」作品の募集
- 命を大切にすることを育む地域との絆づくり応援事業の実施
- 他人を思いやり命を大切にすることを育む対話集会の実施
- 県内一斉声かけ活動の実施
- 子どもの夢・未来応援メッセージソング及び動画の普及啓発
- 相談先ステッカーの作成・配付



命を大切にする心を育む県民運動推進フォーラム

令和4年12月4日(日)に青森市において開催した、命を大切にする心を育む県民運動推進フォーラムの様をご紹介します。

講演 「あべこうじのハッピーになる秘訣!!」

講師 あべこうじ さん

芸人のあべこうじさんは、2010年1人で活動するお笑い芸人(ピン芸人)のネタNO.1を決める「R-1ぐらんぷり」で優勝。現在は全国の劇場に出演するかたわら、テレビ番組の司会や俳優など、多方面で活躍されています。

講演では、あべさんがどうやって毎日をハッピーに過ごしているのか、その秘訣を楽しいエピソードを交えてお話しいただきました。

あべさんが、何度かお話しされていたのが、角度を変えて物事を見るということ。「何か」にイライラするのは、その「何か」が自分のルールに合わないからで、世の中にはいろいろなルールが存在するということを知っておくと、視野が広がって、嫌なことも実はハッピーにつながることもかもしれないと考えられるようになる。自分で考えること(思考)が大事だとおっしゃっていました。

講演後の質疑応答の時間では、ざっくばらんな質問がとび、あべさんも会場の皆さんとのやり取りを楽しんでいらしたようです。

会場の皆さんからは、「涙が出るくらい笑いました。」「口角を上げるだけでハッピーになれるという話を聞いて、笑うことは大事だと思った。」「明日から自分を軸にハッピーに過ごしたいです。」「今日の時間がハッピーでした。」などの感想が聞かれました。

あべさんの自然体で気さくな雰囲気や、笑えるお話が盛りだくさんの講演で、楽しいひとときを過ごすことができ、皆がハッピーな気分になりました。



青森県青少年健全育成成功労者表彰式



青少年の健全育成に尽力された個人受賞者13名のうち9名、団体受賞者1団体が表彰状を授与されました。

「笑顔の未来へのメッセージ」

優秀作品表彰式



令和4年度の最優秀賞及び優秀賞を受賞された8名のうち5名の皆さんが賞状を授与されました。

「命を大切にする心を育む地域との絆づくり応援事業」活動報告

地域資源を活用して子どもたちに体験活動を提供しているモデル事例について、弘前市と青森市を中心に活動している団体から取組について紹介していただきました。



NPO法人
SEEDS NETWORK



青森大学ぬい撮り倶楽部

「笑顔の未来へのメッセージ作品」募集事業

県内の小・中学生及び高校生の皆さんから応募があった2,307点から、入賞作品を決定しました。

図画部門

最優秀賞

寺沢 賢青さん (十和田市立南小学校)



【作品説明】
じじばの作った野菜がたくさんならぶ車で、ピッチャーぶく、バッターばの野球をするのが大好きです。じじばば長生きしてね。

優秀賞

田中 さくらさん (青森市立北小学校)



【作品説明】
かぞくみんなで雪遊びをして楽しかったです。冬の外はさむいけれど、心はぽかぽかになります。

入選

内海 百賀さん (青森市立筒井南小学校)



【作品説明】
なつやすみ、かぞくみんなでうみにいって、とってもたのしかったよ。また、いっしょにうみにいこうね。

若山 芽生さん (青森市立古川小学校)



【作品説明】
おぼんにかぞくみんなで花火をしました。とてもきれいでした。お空からおじいちゃん、見てくれているかな。

長内 希子さん (藤崎町立藤崎小学校)



【作品説明】
毎日みんなで食べるごはんの時間が大きいです。わたしがおこのみやきを作った時はみんなにほめられとても楽しく食べました。

若山 朝香さん (青森市立筒井小学校)



【作品説明】
夜に家族みんなで見た桜がとてもきれいでした。またみんなで見に行きたいなという想いを込めて描きました。

伊織 風花さん (つがる市立柏小学校)



【作品説明】
お父さんが単身ふ任で会う機会が普段ないので、ビデオ通話で一緒にコイのエサやりや他愛もない会話をたくさんしました。

入賞作品は令和5年度カレンダーとして、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校に配付しています。

また、県のホームページからもダウンロードできます。

県ホームページ

[笑顔 カレンダー](#)

[検索](#)

メッセージ部門

小学生の部

最優秀賞

葛西 うめ乃さん (弘前市立大成小学校)

夜中に目が覚めた。手を伸ばすとあったかいお母ちゃんの手。それだけで一安心。いつか私もだれかのあったかい手になれたらいいな。

優秀賞

小山内 さほさん (弘前市立千年小学校)

ころんだのは、がんばったからこそころんだんだよ。そう、うんどうかいでも、まらそんでも、がんばったからこそんだんだよ。

入選

五月女 美波さん
(東通村立東通小学校)

「ありがとう。」いえばすごくいいきもち。「ありがとう。」いわれりゃもっといいきもち。せかいがありがたいで、あふれますように。

上長根 有翔さん
(階上町立道仏小学校)

お父さんとはいるおふる。ザブンとおゆがあふれる。うれしいもあふれる。ぼくは、ブクブクしながらわらっちゃうよ。

村井 利彩さん
(十和田市立東小学校)

未来のわたしへ。きっと今より何でもできるようになっているね。でも忘れないで。何でも楽しめる今のキラキラした気持ち。

大沼 柚帆さん
(三沢市立岡三沢小学校)

わたしにも試練がやってくるだろう。のりこえた先には、明るい未来が待っているよね。つらい時には、笑ってみよう。

中学生の部

最優秀賞

新山 幸華さん (むつ市立田名部中学校)

作曲家になる。辛くて苦しい人達に寄りそえる。そんな曲を作る。誰かの心に留まって、灰色の日常が、鮮やかに染まれば良いな。

優秀賞

小坂部 瑛太さん (青森山田中学校)

信号の青は進めという意味。うまくいかない、つらいと思った時、上を向いて見よう、空は青い。それは進めという合図。

入選

酢谷 彩那さん
(むつ市立むつ中学校)

人に嫌われるのが怖い。そう思い周りの顔色を伺っている自分がきらい。少し先にいる自分は勇気をもって真っ直ぐ生きているかな。

角地 瑞生さん
(階上町立道仏中学校)

「ありがとう」って難しい。素直になれなくて、少し恥ずかしくて。でも、伝えてみたら、心があったかくなって、笑顔は増えていく。

森 心菜さん
(むつ市立田名部中学校)

自分が自分で嫌になる。他人に憧れて「いいなあ」を連呼する。でも、自分の良いところも見つけて、自分自身も好きになろうよ。

下井田 侑さん
(南部町立福地中学校)

泣かないために笑わず、笑うために泣きたい。無理して笑うより、無理せず泣く方が、ずっと笑顔でいられると思うから。

最優秀賞

高森 陽圭さん (県立尾上総合高等学校)

周りと違うからって下を向く必要はないんだ。君は悩みながら必死に生きている。自分の道を生きている。私はそんな君が大好きだ。

優秀賞

長内 ののかさん (県立青森高等学校)

足元に転がっている小さな日常のピースも、拾って繋げていけば1枚の素敵な絵になる。これからも一瞬一瞬を大切にしていこう。

入選

金淵 悠和さん
(県立三本木農業恵拓高等学校)

つらいとき、苦しいとき投げ出したくなる僕がいる。でも、そんなとき励ましてくれる君がいるから「よし頑張ってみよう」と思える。

下澤 徳康さん
(県立三本木農業恵拓高等学校)

僕の青春はグラウンドで走り回ること。青春はラグビーボール。どこに転がるかわからないからおもしろい。

三津谷 杏華さん
(県立大湊高等学校)

周りの目を気にしすぎじゃない? 「自分」はこの世に1人しかいない。そして人生は一度きり。もっと自分らしく生きていいんだよ。

山口 夏奈さん
(県立青森高等学校)

人生百年時代。一年くらい辛くてもなんとかなる。その一年が長く感じ苦しくても時は過ぎる。側に私がいるから大丈夫。

♪ 子どもの夢・未来応援メッセージソング♪ 「笑顔の未来へ」 YouTubeで配信中♪

自分の周りには、応援してくれる人、いつも見守ってくれる人がたくさんいるというメッセージを子どもたちに伝え、子どもたちが夢や希望を持ち笑顔で明るい未来に進んでいけるよう願いを込めて、平成29年度に制作したものです。

一活用例一

- 子どもたちが集まる様々な機会・イベントの際にBGMとして
- 合唱曲や合奏曲として

※歌詞・楽譜はホームページから無料でダウンロードできます。



県ホームページ



給食時の「昼の放送」で放送しました♪

東北町立上北小学校

送ってもらったCD※を放送委員が「昼の放送」で放送しました。

※お問合せくだされば、県からCDをお送りします。



命を大切に作る心を育む地域との絆づくり応援事業

子どもたちの地域社会との関係づくりを創出するとともに、生きる力の基礎となる自己肯定感を育むことを目的として事業を実施しています。公募により選ばれた令和4年度の事業受託団体による活動内容をご紹介します。

特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK [弘前市]

私たちが暮らす弘前市は、日本一のりんごの街です。りんごは身近な果実で、りんご畑は日常の風景です。そこで、りんごにまつわる仕事を体験する「キッズハローワークりんご篇」と題し、「りんご」を通して地域の人や特色を体感する取り組みを行いました。

最初に、りんご農家の仕事を体験しました。津軽にりんごの木が初めて植えられたのは、今から140年ほど前、明治の初めの頃です。それまではりんごの木が一本もなかったと想像できるでしょうか。他には、りんご畑で使う道具を作る仕事やりんごを使った料理の仕事などを体験しながら、「りんご」は人と人をつないだり、互いに生かし合う関係を作る産業として地域の暮らしを支えていることを知る内容としました。

こうした体験を通して、自分自身や目の前の誰かを大切に作る心を育んでいきたいという思いがあります。子どもたちとスタッフ、地域の方が一緒に作業をしながら、何気ない会話を交わすことが気持ちを滑らかにしてくれるように感じています。また、共通の話題があることで、世代を問わず、その場にいる人同士がフラットな関係になれるということも感じられたらと思っています。



青森大学ぬい撮り倶楽部 [青森市]

「ぬい撮り」とは？それは、観光名所、自然風景など様々なものを背景として「ぬいぐるみ」を撮影することです。また、その画像をSNS等で発信することでもあります。

私たちは、ぬい撮りにより青森県の魅力を発信する活動に取り組んできました。その中で、「小学生の現地訪問型の郷土学習にぬい撮りを取り入れれば、学習効果の向上が見込めるし、大学生と小学生の異世代間交流にもなるのではないか。」と考え、これを実践しています。

初めての実践は、外ヶ浜町学童教室の児童10名を対象として行いました。一緒に、世界文化遺産である大平山元遺跡を訪問し、解説を受けたのちにぬい撮りをし、この画像を活用して「ぬいぐるみたちが、大平山元遺跡についてわかったことを発表する。」という体裁のポスターを作成しました。

これを含めて、これまでに、大平山元遺跡、青函トンネル記念館、むつ市の水源池公園などをフィールドとして5回の郷土学習事業を行いました。

児童にとっては、大学生と交流しながら、楽しく郷土のことを学ぶ機会となることに加え、地元のボランティアガイドなどの地域の方々と交流する機会となっています。



県立鶴田高等学校



三上富士子
コーディネーター

県立弘前工業高等学校



県立七戸高等学校



生徒の他人を思いやり命を大切にする心を育むとともに、生徒と地域の大人との相互理解を促進し、信頼関係の構築を図ることによって、地域全体で子どもを見守る環境づくりを進め、また、生徒の孤立感の解消や明るく前向きに未来へ進んでいく気持ちの醸成を図ることを目的としています。

他人を思いやり命を大切

県立青森北高等学校



平間 恵美
コーディネーター



県立名久井農業高等学校



自分は一人ではないんだなと思った。嫌なことがあってもため込むタイプだが、グループワークを通じて、人に頼ることも大切だと思った。(高校生)

県立むつ工業高等学校



渡部 靖之
コーディネーター



司会進行役をするのは難しかったが、コロナ禍で、様々な年齢の人と話す機会が減っているときに、対話集会に参加できてとてもよかった。(大学生)

弘前市立新和中学校



佐藤 洋介
コーディネーター

八戸市立江陽中学校



むつ市立近川中学校



今年度の対話集会では、「思いやり」、「命の大切さ」をテーマに、コーディネーターによるリードのもと、生徒・地域住民・大学生ボランティアが小グループに分かれ、自分の思ったことを話したり、他の人の意見に耳を傾けたりして、自分にとっての「思いやり」や「命の大切さ」とはどういうことなのかを考え、理解を深めました。

にする心を育む対話集会

青森市立油川中学校



坂本 徹
コーディネーター

東北町立上北中学校



自分の意見を主張しつつ、自分と異なる意見にも耳を傾けることができ、自分の意見を発展させることができた。
(中学生)

つがる市立森田中学校



思った以上に生徒一人一人の考えがしっかりしていて自分の意見を言えることがすごいなあと思った。また参加したい。
(地域住民)

県内一斉声かけ活動

～みんなの笑顔は地域のたから～



青森市立油川小学校



「あいさつをととした心の交流」を目指し、リトルJUMPチームが毎朝のあいさつ運動を行っています。また、全校縦割り班も輪番制であいさつ運動に参加し、みんなで笑顔あふれる学校作りを目指しています。

弘前市立新和小学校



生活委員会を中心に元気よくあいさつ運動を行いました。明るい学校にしようとみんな元気にあいさつしています。

八戸市立三条小学校



全校であいさつ運動に取り組みました。通学路でのあいさつ運動では、地域の人も気持ちよい挨拶を返してくれました。

つがる市立森田小学校



児童会役員・ボランティア委員会が中心となり、朝のあいさつ運動を行っています。

東北町立上北小学校



あいさつ運動では、児童会、教職員、保護者、青森県青少年健全育成推進委員の皆さんと一丸となって活動に取り組みました。

むつ市立奥内小学校



運営委員会が中心となり、地域の民生委員の方々と共に声かけ活動を実施しました。「おはようございます。」の元気な声が響き渡り、一日をさわやかにスタートすることができました。

みんながお互いに声をかけ合う地域づくりを進めることで、命を大切に作る心が育れます。大人から率先して声をかけ、

地域社会全体で子どもたちを見守り、育てていこうとする意識を高めるため、県内小・中学校、高等学校及び特別支援学校において、4月、7月、8月、11月の合計4回「県内一斉声かけ活動」を実施し、地域の皆様のご協力により明るいあいさつが交わされました。くまの形の反射材を配りながら活動を行った重点実施校12校をご紹介します。

青森市立油川中学校



生徒玄関前階段で、全校生徒会執行部があいさつ運動をしています。コロナに負けず、工夫しながら取り組んでいます。

弘前市立新和中学校



PTA生活委員会をはじめ保護者や地域の方々と協働した「あいさつ・声かけ活動」を実施することができました。

八戸市立江陽中学校



本校では毎朝のあいさつ運動のほか、江陽小学校との合同あいさつ運動を実施しています。今年は地域の皆さんにもあいさつ運動に参加していただき、温かな声かけを地域に広げることができました。

つがる市立森田中学校



小中合同のPTAあいさつ運動や生徒会、委員会を中心とした笑顔推進声かけ活動を実施することができました。

東北町立上北中学校



2学期がスタートしたばかりの8月23日、JUMPチームと東北町青少年育成会議のメンバーで行いました。当日は、休み明け直後ということもあり、あいさつ(声かけ)をする側も、される側も、活動の意味を考えながら実施しました。

むつ市立近川中学校



本校では登校指導を兼ねてあいさつ運動を実施しています。例年は教師のみで行っていますが、今年度は、7月に保護者、学校運営協議員、民生委員の皆様にもご協力いただいで実施しました。

子どもたちが人と人との温かな絆を感じ、
子どもたちの健やかな成長を見守りましょう!!

育てよう子どもの豊かな心

県では、青少年の健全な育成を図る上で、内容が優れた書籍、映画、演劇、団体の行う活動など有益であると認められるものを推奨しています。



県ホームページ

青森県推奨図書のお知らせ

ふたりのえびす

対象：小学生(高学年)から

著者：高森 美由紀
発行：株式会社フレーベル館



クラスでは明るいおちゃらけキャラを演じている太一。王子と呼ばれ女子に人気の高い大路優希と「八戸えんぶり」でえびす舞を踊ることになった。たがいの気持ちをぶつけ合いながら、最後にふたりがつかんだものとは？

チューニング！

対象：中学生から

著者：風祭 千
発行：株式会社文芸社



2年前に叔父を亡くしてから何に対してもやる気が起きない中2のあさ。宿泊学習で同じ班になった3人のクラスメイト。決して仲がいいとはいえなかった彼らとの出会いが、あさの運命の歯車を動かす。4人のチューニングが合った時、最高のハーモニーが生まれる！

毎月第3日曜日は「家庭の日」

県では、毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、家族のぬくもりを通して絆を深める日としています。

家族みんなで集まり、話し合いの場を持ちましょう

毎月の「家庭の日」の計画を立ててみませんか？
地震や停電など「いざ」というときの備えや避難場所などを家族みんなで確認するのもいいですね。

家族みんなで協力し合いましょう

家事をみんなで分担してやってみましょう。みんなで協力しあうと大変なことも楽しくできますよ。

家族一緒にの時間を楽しみましょう

家族で笑顔あふれる時間を共有しましょう。

悩みに応じた相談先をご紹介します

子ども・若者総合案内

(県青少年・男女共同参画課内)

TEL 017-777-6123 9:00~17:00

(土・日・祝日・年末年始を除く)



現在の生活状況や今後の進路・就職など、様々な面で困難を抱えた「子ども・若者」や、そのご家族からの相談に応じる相談窓口・専門機関をご案内します。



県ホームページ▶

会員募集

「命を大切にする心を育む県民運動推進会議」では、運動の趣旨にご賛同・ご協力いただける会員団体を広く募集しています。企業や任意団体、小規模のサークル等、団体の規模は問いません。会員の皆様には、ご希望に応じてオリジナルステッカーの提供やイベント等で使用できるのぼり旗の貸出などを行っています。年会費等の費用負担は一切ございませんので、お気軽に下記事務局までお問い合わせください。また、本運動に対する皆様のご意見もお待ちしています。

お問い合わせ

命を大切にする心を育む県民運動推進会議 事務局

(青森県環境生活部 青少年・男女共同参画課内)

〒030-8570 青森市長島1丁目1番1号 TEL 017-734-9226 FAX 017-734-8050

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp



県ホームページ